



一般社団法人ブラックキャップス



# Yuma Takeshita

竹下雄真

株式会社ポジティブCEO / デポルターレクラブ代表

株式会社デポルターレ・テクノロジーズCEO

慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員

早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員

北海道大学東京オフィスアドバイザー

文教大学湘南総合研究所準研究員





Deportare  
Club

**存在するなら進化しろ**

# デポルターレクラブとは

## CONTENTS



Personal Training



Studio Program



Body Care



Online Training

## TRAINERS



2010



Establishment of Deportare Club

2011



Opening of the NishiAzabu gym

2012



Expansion and relocation of the gym and the beginning of consulting services

2014



Deportare Yoga begins

2018



Form an alliance with SQOL KANAZAWA

2019



Opening of the ASICS SPORTS COMPLEX TOKYO BAY

2020



Establishment of Deportare Technologies

2021



Establishment of Chigasaki Black Caps





# 課題と改善・解決策

## 課題

### ①少子化に伴う部員数の減少

クラブチーム選手が学校部活大会出場権がない。茅ヶ崎市・寒川町の中学部活動野球としての登録は、2重登録は原則不可。硬式野球チーム所属の生徒が部活動野球に出場し、大会を勝ち進んだ経緯が原因。

### ②専門性の高い指導者の不足

学校部活動は生徒のみの活動になっている。  
指導したい教員・辞退したい教員の契約形態や要件定義、規程が不明瞭

### ③部活動の枠に捉われない新たなスポーツライフの創出

行政・学校・民間の業務スピードの進め方の差。  
「行政」=業務多忙で、強制力でない限り、業務が後手になっている。地方行政長、議員等の積極的な働きかけ、もしくは国の大きな指針がないと、動きが鈍くなる。  
「学校」=担当教員、管理部門の管轄・責任範囲、権限がないと進み辛い。

## 改善・解決策

- ・大会出場規定の改定
- ・責任所在の明確化
- ・選手（生徒）の学校・クラブチームの情報の共有プラットフォームの構築

- ・部活指導協力者の募集
- ・責任所在の明確化
- ・選手/保護者が考える「専門性の高い指導者」の定義化

- ・地域の担い手との連携
- ・具体的な業務施策を協議/実施する体制構築
- ・新規競技/文化の検討会の実施
- ・具体的なイベントの実施  
例：定期的なSprint 教室の開催  
- スポーツの基本となる「走る教室」をブラックキャップスで実験中

我々が最終的に目指す姿

# Wellness Hub 構想

茅ヶ崎市 × 文教大学 × ブラックキャップス

地域住民



子ども

幼い頃から健康に向けた習慣化を身につける。能力向上

学室や部活がわりの利用も。将来的には、野球だけでなく、さまざまなスポーツへ発展させる



大人

健康維持やスポーツ・文化活動参加

子どもがスポーツ中にはカフェ利用など



高齢者

健康寿命を伸ばす結果的に、医療費削減へ

運動



練習場/体育館



栄養

運動で終わらない

風呂/サウナ

スパ



学生がB-CAPSの栄養管理

塾

学習



子どもの塾、習い事、HCC



未病センター

未病



学生がHCCライセンスを取得

未病センターで働く

オンラインスタジオ



本部

健康のスペシャリスト  
育成



スポーツクラブ外への発信

子どもを含めた老若男女、地域のすべての人の心身の健康や、基礎体力（病気に負けない力）、その他能力の底上げを目指す

結果として、地域コミュニティ強化、新事業創出や地域ブランド向上に。

